

県道前浜一植野線

滑走路直下の地下道開通

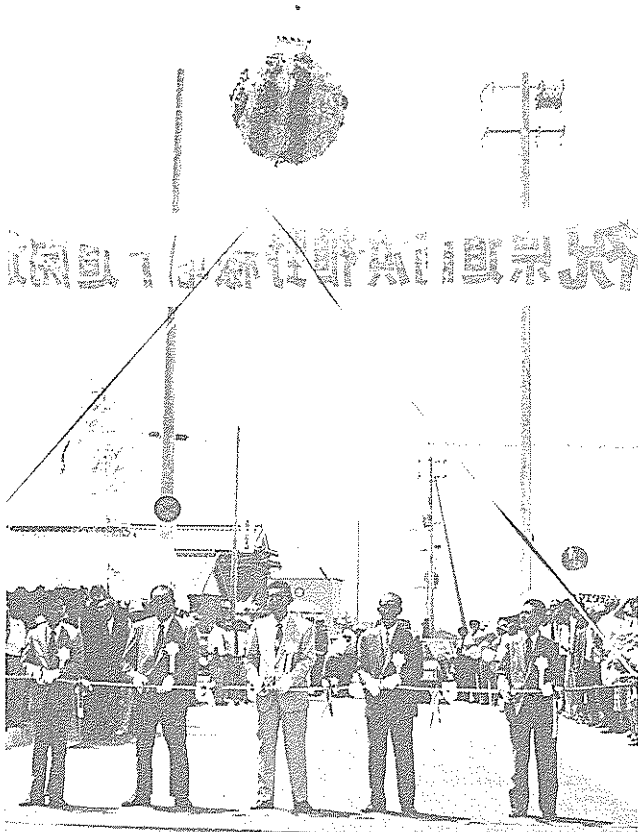
両側に歩道、照明、非常電話など完備

今年暮れのジェット機第一便の就航を控え、高知空港周辺では拡張整備工事が急ピッチで行われていますが、このほど、滑走路直下の秋田川の暗渠工事（五十八年三月完成）に次いで、県道前浜・植野線の地下道工事が完成、七月二十五日に開通式が行われました。

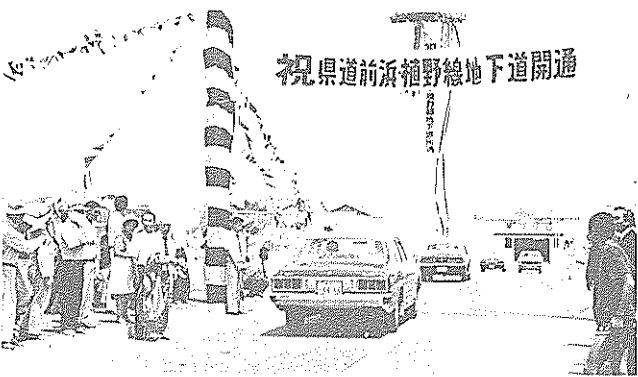
県道前浜・植野線は、二千七百メートルの新道敷路ができると、その北西端部と交差するため地下道工事が必要となり、五十六年九月に着工、総事業費十八億三千四百万円をかけたこの大事業は、工事の遅れもなく順調に進み、このほど開通の運びとなったものです。地下道は延長九百八十メートル（トン

ネル部分五百一十メートル）で、車道が三車線、両側に一・五メートルの歩道・自転車道が設けられています。この県道は、周辺地域民の通勤・通学道であるため、トンネル内は換気、照明、非常電話が完備されているほか、台風や集中豪雨に備えて、南北の入口に各二機、計四台の自動排水ポンプが設置されている。

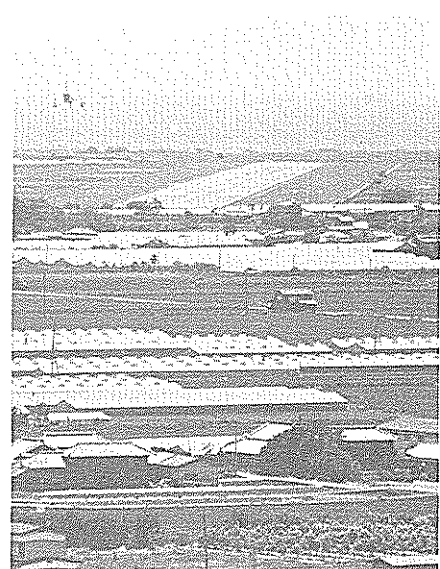
開通式には中内知事や小笠原市長ら関係者約百人が出席、テープカットを行ったあと、通り初めをして工事の無事完成を祝いました。なお、この県道工事関係では、飛行場を取巻く場周道路と接続する側道（幅四メートル）の工事が残っており、この工事十月までには完成することになっている。



中内知事、小笠原市長らがテープカットをして開通を祝った



市内で初の地下道。次々と通り初めをした



かつての空港周辺、今は拡張整備で大きく変っている